

令和6年能登半島地震募金活動協力のお礼

令和6年1月1日、令和6年能登半島地震が発生し、尊い命が失われ、本当に多くの方が被災されました。

同じ半島に住む者として、全く他人事ではなく、すぐに事業所様に対し「千円(声援)募金」の活動を呼びかけさせて頂いたところ、27事業所が協力を申し出て頂いて、約2ヶ月間、募金箱の設置をして頂きました。

結果、**511,183円**の募金を集める事ができ、石川県の義援金専用口座に振り込みをさせて頂きました。

募金箱設置にご協力頂いた事業所様、募金して頂いた皆様に心より御礼を申し上げます。まだまだ、復興への道のりは長くなりそうですが、一日も早い復興をお祈り申し上げます。



「伊豆だより掲示板」

～法人会事務局長のひとりごと～

さあ、今こそ!



一歩踏み出す
法人会。



フォロワー1,800人突破!

伊豆からの情報を中心に発信しています。
是非、情報もお寄せ下さい。



～法人会事務局長のひとりごと～

伊豆だより掲示板



編集後記

猛暑、猛暑に豪雨に猛暑…本当に地球はどうなってしまうのだろうか?と不安になるような天候が続いています。外に出ると危険…こんな状況では、晴れていても海水浴客が増える事もなく、夏の観光のあり方も考える節目に来ているように感じます。

法人会では、今年も、地域の子供たち、移住者の方々と地域事業所を「繋ぐ」事業を継続することとなりました。昨年一年を通じた活動で感じたことは、地域の子供たちが仕事を体験する場、地域の会社を知る場が少なく、それが、故郷で働き、暮らすことの不安に繋がっているということ、そして、移住者の方々と地域とも接点が少なく、本当は、心から地域の皆様との触れ合いを欲しているという事などでした。子供たちが将来的な事も含めて、故郷での居住を選択肢の一つにしてくれること、移住者の方々に快く受け入れられる土地であることは、人口減少に抗う、唯一の術である事を心より感じた次第です。

さて、今回の会報誌の取材テーマは、前回に引き続き「伊豆の未来を繋ぐ人」です。

取材を通じて共通して感じたことは、「縁」というワードでした。大観荘の若女将は、京都の一流料亭で修業されていた今の社長と出会い結婚されますが、出身は福岡県で、昔は伊豆半島の存在すら知らなかったそうです。旧姓が「伊豆」。松崎町で漁師をやりながら猟師も行い、ジビエ肉の加工販売をされている関さんは、西伊豆プロジェクトの矢岸代表とは知り合いましたし、南伊豆で包丁販売されている渡邊さんは「私の包丁を使ってもらっています」と言っていて、やはりお知り合いのようでした。白浜蒸留所の白井さんは、バーで知り合った仲間たちとバー経営の会社を立ち上げ、お客様のご縁で下田に移住…河津の植田さんは、伊豆に赴任された事で人生が大きく変わったといっています。

何事も「縁」が繋ぐ人生ですね。

(広報)